

アラビア語エジプト方言の疑問詞の語順について

長渡陽一（東京外国語大学 特別研究員）

nagatoyouichi@gmail.com

1. はじめに

アラビア語エジプト方言は疑問詞「元位置」型（Wh-in-situ）と言われているが、文頭移動する例もみられる。文頭移動はこれまで、焦点化など文体バリエーションとされてきたが、多くは擬似分裂文に対する説明であり、*e: da?*「何+これ」のように文頭が標準的であるものは説明されてこなかった。

本発表では、エジプト方言の疑問詞位置の類型を明らかにするために、映画のシナリオに現れた疑問文を4つの構文（動詞文、存在文、コピュラ文、擬似分裂文）に分類し、疑問詞位置を観察した。その結果、動詞文と存在文では文頭移動はほとんど見られず、文頭移動するのはコピュラ文と擬似分裂文に限られることが明らかになった。コピュラ文には、元位置の例（*ismak e:?*「君の名前+何」）と文頭移動した例（*e: da?*「何+これ」）があるが、どちらも語順を入れ替えにくいことから、単に焦点化による違いとは言えない。また擬似分裂文では全て文頭移動していた。このように、構文によって疑問詞位置の型が異なるということは、構文によって情報・意味構造に違いがある可能性を示唆している。

1.1. 疑問詞位置について

疑問詞の起こる位置には次の4つの型がある。（角田 1990 より）

- ・文頭に起こる型…英語など（本稿では「文頭移動」と呼ぶ）
- ・文末に起こる型
- ・平叙文の場合と同じ位置に起こる型…日本語、中国語など（本稿では「元位置」と呼ぶ）
- ・特別の位置に（例えば、動詞の直前に）起こる型。

1.2. エジプト方言に対するこれまでの記述とその問題点

- ・ Mitchell (1962) (文法書)

「とくに強調しない典型的な語順は、英語と逆である」(p. 116)

「疑問詞を文頭に置くと、強調になる」(p. 116)

擬似分裂疑問文を例に、元位置の例文よりも「強調されている」(p. 117)

- ・ Ernest et. al (1979) (文法書)

「文を疑問詞疑問文に変換するには、当該の疑問詞をその成分の場所に置く」(p. 222)

- ・ 西尾 (2009)

「本来の平叙文の後部の位置にとどまる Wh 疑問文が多用される」(p. 1)

「疑問詞が文頭に移動する Wh-in-comp 疑問文もある」「文頭へ移動した疑問詞についても、文法的には焦点化による移動として扱うことが可能だろう」(p. 15-16)

- ・ Versteegh (2014)

「疑問詞を文頭に置かず、(中略) 文中のものと位置にとどめる」(p. 217)

「またエジプト方言では、[疑問詞を文頭に置く]のように言うこともできる。(中略) どんな言語でも、このような強調、際立て、主題化などの談話現象にはいろいろな選択肢が存在する」(p. 218)

ところが、疑問詞 *e*:「何」が文頭に置かれるのが、強調ではなく基本的な語順のものがある。

e: *da* ? 「これは何か？」
何 これ

e: *raʔj-ak* ? 「君の意見は何か? (どう思うか?)」
何 意見-君の

2. エジプト方言の疑問詞位置

調査資料として次のエジプト方言による映画のシナリオ 2 編から文例を抽出し（疑問詞単独の発話を除く）、疑問詞の位置を観察した。調査結果の数値は本稿末尾の付表に示した。

『テロリズムとケバブ』1992 年、約 110 分

『ハッサンとマルコス』2008 年、約 100 分

観察の際に、アラビア語の構文との関連に注目した。アラビア語の構文は次の 4 つである。

1. 動詞文 2. 存在文 3. コピュラ文 4. 擬似分裂文

※分裂文の疑問文は 1 例観察されたが、擬似分裂文と同じと考えて差し支えない。

2.1. 動詞文

動詞文とは、動詞がある文を指し、「主語」+「動詞」+「目的語」の語順になる。

動詞文の疑問詞目的語、疑問詞副詞は元位置にとどまる。

- (1) *enta ʔult e: bi-ʔ-zabt* ? 「君は正確には何を言ったか？」
君 言った 何 正確に
主語 動詞 目的語 副詞句
- (2) *ha-nru:h fe:n* ? 「私たちはどこに行くか? (どこに行けばいいか?)」
(未)私たちが行く どこ
動詞 副詞句
- (3) *ge:t hina le: ?* 「なぜ来たのか？」
来た ここ なぜ
動詞 副詞句 副詞句

疑問詞目的語を文頭にもって来る文は、擬似分裂文になる。単純な移動は見られない。

- (4) *mi:n illi ... toʔrod-o* ? 「君が追い出すのは誰か？」
誰 (定) 追い出す-彼を
補語 主語

2.2. 存在文

存在文とは、存在詞 *fi*:「ある」や *ʕand* +人称代名詞「誰々の元にある」などを用いた文を指し、英語の「there is」、中国語の「有」に相当する。今回の資料には *fi*:の文例しかなかった。

存在文の疑問詞主語は元位置（存在詞の直後）にとどまる。文頭移動すると非文である。

- (5) *fi: e: ?* 「何があるか? (どうした?)」
ある 何
存在詞 主語

2.3. コピュラ文

アラビア語のコピュラ文は「主語」＋「補語」で、現在時制ではコピュラを使わない。補語には名詞、形容詞、前置詞句、副詞句などがくる。疑問詞がコピュラ文の補語である文では、元位置と文頭移動の両方がある。2通りの位置が、何によって決まっているかは不明である。

2.3.1. 元位置

- (6) *dija:nt-ak* *e:*? 「君の宗教は何か？」
宗教-君の 何
主語 補語
- (7) *kullu-ku* *mi:n*? 「君たち全員は誰か？」
全員-君たち 誰
主語 補語
- (8) *ibn-ak* *fe:n*? 「そして君の息子はどこか？」
息子-君の どこ
主語 補語

2.3.2. 文頭移動

- (9) *e:* *d-dawfa di*? 「この騒ぎは何か？」
何 (定)-騒ぎ この
補語 主語
- (10) *mi:n* *do:l*? 「これらは誰か？」
誰 これら
補語 主語
- (11) *fe:n* *el-walad*? 「その子はどこか？」
どこ (定)-子
補語 主語

コピュラ文の未来や過去は動詞 *ka:n* 「である」を使うが、疑問詞（句）が文頭移動しており、構文から見るとコピュラ文と言える。

- (12) *ha-jku:n* *fe:n* *el-makan da*? 「その場所はどこでありそうか? (どこになりそうか)」
(未)である どこ (定)場所 その
補語 主語

2.4. 擬似分裂文

アラビア語の擬似分裂文は、疑問詞が補語として文頭に置かれ、節定冠詞 *illi* が冠せられた主語節が後続する構文である。疑問詞は、原文において主語や目的語など、さまざまな場合がある。

擬似分裂文は、疑問詞が文頭移動する。

- (13) *e:* *illi enta bteʕmel da*? 「その君がしていることは何か？」
何 (定) 君 している その
補語 主語
- (14) *mi:n* *illi fatan ʕalaj-ja*? 「私のことを告げ口したのは誰か？」
誰 (定) 告げ口した について-私
補語 主語

2.5. 疑問詞の移動

2.5.1. 主語の *e*:「何」の後方移動

主語の *mi:n*「誰」は、動詞文でもコピュラ文でも元位置（文頭）に置かれる（8 例中 8 例）のに対し、主語の *e*:「何」（5 例中 5 例）、*ka:m*「いくつ」（1 例中 1 例）は後方移動する。これには有生性が関わっていると思われる。主語の *e*:「何」の基本的位置は後方と言える。

- (15) *mi:n* *fatan* *ʕalaj-ja* ? 「誰が私のことを告げ口したか？」 ※(14)はこの擬似分裂文。
誰 告げ口した について-私
主語 動詞 副詞句

- (16) *mi:n* *maʕa:ja* *ʕala l-χatt* . 「誰が（電話）線上で私と一緒に？」
誰 私と一緒に の上 (定)-線
主語 補語 副詞句

- (17) *ha-jihʕal* *e*: ? 「何が起きるか？」
(未)起きる 何
動詞 主語

- (18) *ha-jmu:t* *minn-ina* *ka:m* ? 「私たちの内、何人が死ぬか？」
(未)死ぬ から-私たち いくつ
動詞 副詞句 主語

主語の *e*:「何」を文頭に置くときは、擬似分裂文になる（2.4 を参照）。

- (19) *e*: *illi* *be-jihʕal da* ? 「この起きていることは何か？（何が起きているのか？）」
何 (定) (進)起きる この
補語 主語

2.5.2. 疑問詞の文頭移動

疑問詞が文頭移動したのは、ほぼ全て、コピュラ文の疑問詞補語、および擬似分裂文のみであった。コピュラ文と擬似分裂文は、構文的には並行していて、同一構文である。

- (20) *e*: *il-ʕo:t* *da* ? 「この音は何か？」
何 (定)音 この
補語 主語(名詞)

- (21) *e*: *illi* *be-jihʕal da* ? 「この起きていることは何か？」 ※(19)を再掲
何 (定) (進)起きる この
補語 主語(節)

したがって、疑問詞の文頭移動は、コピュラ文の補語に特有のものと言える。

3. まとめと展望

3.1. エジプト方言の構文と疑問詞位置

アラビア語エジプト方言は、構文と有生性によって、次のようにまとめることできる。

- ・動詞文と存在文：主語以外の疑問詞は元位置。
- ・主語：*mi:n*「誰」は元位置（文頭）

e:「何」は後方移動。有生性と関係があるかも知れない。

- ・疑問詞の文頭移動は、コピュラ疑問文（擬似分裂疑問文を含む）に特有のものである。

コピュラ文：疑問詞補語は、元位置および文頭移動の両方がある。

擬似分裂疑問文：疑問詞補語が文頭移動する。

3.2. 疑問詞位置の対照研究にむけて

「単一言語で普通の文脈において WH 移動と元位置 WH を両方用いることはできない。（たとえば、日本語は元位置、英語は移動のみ）」（Otsuka 2015: 1）という観察があるが、アラビア語エジプト方言はその予想に反する例と言える。

疑問詞位置が構文によって異なるということは、動詞文・存在分とコピュラ文では、情報構造的に違いがある可能性を示している。マレー・インドネシア語も、疑問詞元位置型と言われるが、動詞文とコピュラ文で位置の特徴が異なる。また、同じく SVO 語順である中国語やタイ語は完全に元位置型であるが、これは、同じコピュラ文であっても、中国語・タイ語にはコピュラがあり、アラビア語やマレー・インドネシア語にはコピュラがないという違いが関係しているかも知れない。

4. 引用文献

- Ernest T. Abdel-Massih, Zaki N. Abdel-Malek, El-Said M. Badawi (2009). A Reference Grammar of Egyptian Arabic, Georgetown U.P.
- Mitchel, Terence F. (1962). Colloquial Arabic: The Living Language of Egypt, Hodder and Stoughton Ltd.
- 西尾哲夫 (2009) 「エジプト・アラビア語の Wh 疑問文の語順と語順変化ーコプト語影響説の再検討ー」『国立民族学博物館研究報告』34 (1).
- Otsuka, Yuko (2015) 'The Typology of WH-words: An Austronesian Perspective' 「日本語疑問文の通時的・対照言語学的研究」研究発表会ハンドアウト (http://j-int.info/wp-jint/wp-content/uploads/2016/01/9_大塚先生最終稿.pdf)
- 角田太作 (1990) 「ワルング語の疑問詞の位置」日本言語学会 第 100 回大会研究発表要旨
- Versteegh, Kees (2014). The Arabic Language 2nd ed. Edinburgh U.P. (『アラビア語の世界ー歴史と現在』長渡陽一訳, 2015 年, 三省堂)

本研究は、JSPS 科研費 JP16K02877 の助成を受けたものです。

5. 付表 [構文と疑問詞位置の調査結果]

コーパス（エジプト方言による映画『テロリズムとケバブ』『ハッサンとマルコス』）内の疑問詞疑問文の数。疑問詞、疑問詞位置と構文の相関。

下線が疑問詞、C=補語、X=副詞句、*fi*=存在詞、[]=節、[S]=主語である名詞節。数字下線は各欄の合計

	元位置	文頭移動	疑似分裂文	分裂文	後方移動	合計
<i>e</i> : 「何」	計 118					計 172
主語(動詞文)					<u>VS</u> 5	5
目的語	(S)V <u>Q</u> 72					72
副詞(前置詞+)	V <u>X</u> 3					3
存在主語	<i>fi</i> : <u>S</u> 28					28
補語(コピュラ文)	<u>SC</u> 15	<u>C</u> S 31	<u>C</u> [S] 17	<u>C</u> S[] 1		64
<i>mi:n</i> 「誰」	計 17					計 26
主語(コピュラ文)	<u>SC</u> 5					5
主語(動詞文)	<u>SV</u> 3					3
目的語	V <u>Q</u> 2					2
副詞(前置詞+)	V <u>X</u> 1					1
補語(コピュラ文)	<u>SC</u> 6	<u>C</u> S 5	<u>C</u> [S] 4			15
<i>fe:n</i> 「どこ」	計 26					計 40
目的語	V <u>Q</u> 7					7
副詞	C <u>X</u> , VO <u>X</u> 7	<u>X</u> SCX 1				8
補語(コピュラ文)	<u>SC</u> 12	<u>C</u> S 13				25
<i>ajj+N</i> 「どの」						
主語(動詞文)	<u>SV</u> 1					1
補語、副詞	V <u>X</u> 2					2
<i>ka:m</i> 「いくつ」						
主語(動詞文)					<u>VS</u> 1	1
目的語	V <u>Q</u> 1					1
存在主語(+N)	<i>fi</i> : <u>S</u> 2					2
補語(コピュラ文)	<u>SC</u> 1					1
<i>bika:m</i> 「いくら」	<u>SC</u> 1					1
<i>add e</i> : 「どの位」	V <u>XX</u> 1					1
<i>le</i> : 「なぜ」	VO <u>X</u> , SC <u>X</u> 32	<u>X</u> C 2				34
<i>izza:j</i> 「どのように」	SV <u>OX</u> , C <u>X</u> ... 16	<u>X</u> VS 1				17
合計	218	53	21	1	6	299